

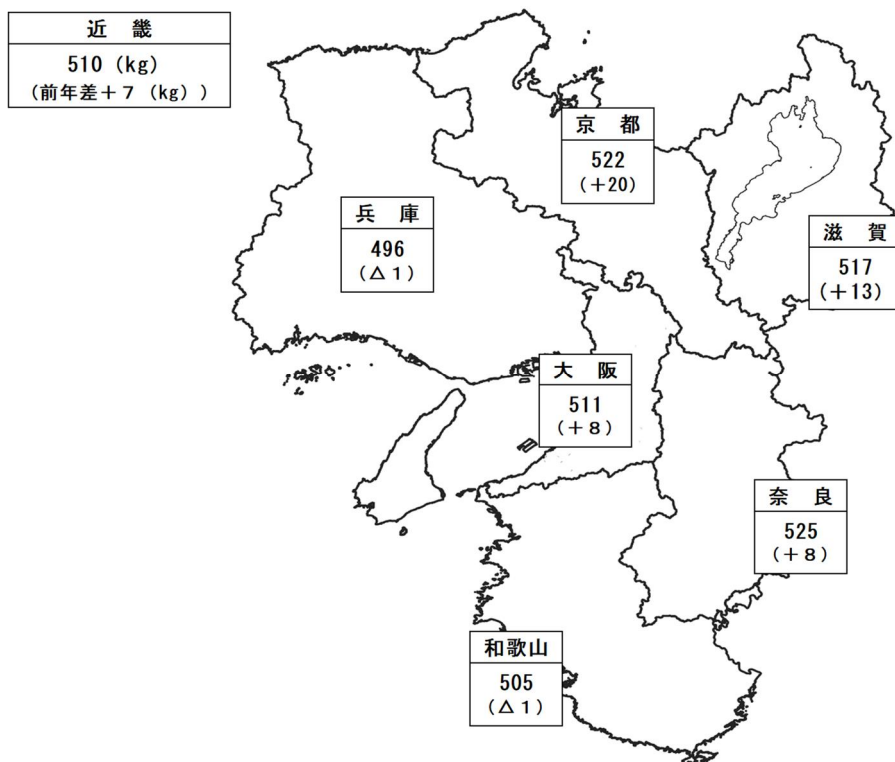
作物統計調査 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量 (近畿)

— 近畿の10a当たり予想収量は510kgの見込み —

【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は9万8,000ha（前年産に比べ1,300ha減少）と見込まれる。うち主食用作付面積は9万600ha（前年産に比べ600ha減少）と見込まれる。
- 2 9月25日現在における水稻の10a当たり予想収量は510kgと見込まれる。
- 3 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は46万1,700t（前年産に比べ3,900t増加）と見込まれる。
- 4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は100と見込まれる。

図1 府県別10a当たり予想収量（近畿）（9月25日現在）
(1.70mmのふるい目幅ベース)



- 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積であり、主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（12ページ【参考1】参照）。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

◎ 累年データ

水稻（子実用）の年次別推移

1 近畿

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成26年産	109,500	108,000	497	537,100	104,500	519,900	98
27	107,900	105,800	508	537,200	101,900	517,700	100
28	107,000	104,500	516	538,700	100,500	519,000	102
29	106,000	103,200	510	526,600	99,400	507,000	100
30	105,800	103,100	502	517,500	99,500	498,700	98
令和元	105,200	102,600	503	516,400	99,000	498,000	99
2	104,100	101,300	490	496,000	97,700	478,000	96
3	103,000	99,300	503	499,700	95,700	481,800	99
4	100,900	96,400	517	498,400	92,800	479,500	102
5	99,300	94,700	503	476,100	91,200	457,800	100
6 (概数値)	98,000	..	510	..	90,600	461,700	100

資料：農林水産省統計部『作物統計』（2～7の統計表において同じ。）

注：1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。

2 作付面積（子実用）とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

3 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量（令和6年産は予想）である。

4 主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

5 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり（予想）収量の比率であり、次により算出している。

(1) 平成26年産 : 1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出。

(2) 平成27年産から令和元年産まで : 全国農業地域ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布について、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）で選別された玄米を基に算出。

(3) 令和2年産以降 : 府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出。

6 「..」は、未発表であることを示している。

2 滋賀県

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成26年産	33,600	33,000	kg 502	t 165,700	ha 31,300	t 157,100	97
27	33,200	32,200	518	166,800	30,600	158,500	100
28	33,000	31,900	534	170,300	30,200	161,300	104
29	32,900	31,700	517	163,900	30,000	155,100	100
30	32,900	31,700	512	162,300	30,100	154,100	99
令和元	32,900	31,700	509	161,400	30,200	153,700	98
2	32,400	31,100	509	158,300	29,700	151,200	98
3	32,100	30,100	519	156,200	28,900	150,000	100
4	31,400	29,000	523	151,700	27,700	144,900	101
5	30,600	28,300	504	142,600	27,000	136,100	97
6 (概数値)	30,300	..	517	..	27,400	141,700	100

3 京都府

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成26年産	15,400	15,200	kg 507	t 77,100	ha 14,900	t 75,500	99
27	15,200	15,000	510	76,500	14,400	73,400	100
28	15,100	14,800	516	76,400	14,300	73,800	101
29	14,900	14,700	510	75,000	14,100	71,900	100
30	14,700	14,500	502	72,800	13,900	69,800	98
令和元	14,600	14,400	505	72,700	13,800	69,700	99
2	14,500	14,300	501	71,600	13,800	69,100	98
3	14,400	14,200	504	71,600	13,600	68,500	99
4	14,300	14,000	514	72,000	13,400	68,900	101
5	14,100	13,800	502	69,300	13,200	66,300	99
6 (概数値)	13,900	..	522	..	13,000	67,900	102

4 大阪府

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成26年産	5,550	5,550	kg 495	t 27,500	ha 5,540	t 27,400	100
27	5,450	5,440	495	26,900	5,440	26,900	100
28	5,320	5,310	505	26,800	5,310	26,800	102
29	5,160	5,150	506	26,100	5,150	26,100	102
30	5,010	5,010	494	24,700	5,000	24,700	99
令和元	4,860	4,850	502	24,300	4,850	24,300	101
2	4,710	4,700	472	22,200	4,700	22,200	94
3	4,630	4,620	490	22,600	4,620	22,600	99
4	4,550	4,540	503	22,800	4,540	22,800	102
5	4,450	4,440	503	22,300	4,430	22,300	102
6 (概数値)	4,300	..	511	..	4,290	21,900	103

5 兵庫県

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用					
平成26年産	38,600	37,900	487	184,600	36,500	177,800	97
27	38,200	37,300	501	186,900	35,700	178,900	99
28	38,000	37,000	501	185,400	35,400	177,400	100
29	37,700	36,600	501	183,400	35,100	175,900	100
30	38,000	37,000	492	182,000	35,500	174,700	98
令和元	37,900	36,800	497	182,900	35,300	175,400	99
2	37,600	36,500	477	174,100	34,800	166,000	95
3	37,200	35,800	491	175,800	34,100	167,400	98
4	36,200	34,500	513	177,000	32,800	168,300	102
5	36,000	34,200	497	170,000	32,500	161,500	100
6 (概数値)	35,700	..	496	..	32,200	159,700	99

6 奈良県

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用					
平成26年産	9,130	9,060	514	46,600	9,040	46,500	100
27	8,980	8,870	515	45,700	8,850	45,600	100
28	8,830	8,710	525	45,700	8,680	45,600	102
29	8,730	8,610	521	44,900	8,580	44,700	102
30	8,660	8,580	514	44,100	8,530	43,800	100
令和元	8,560	8,490	515	43,700	8,450	43,500	100
2	8,540	8,480	482	40,900	8,430	40,600	92
3	8,520	8,440	512	43,200	8,400	43,000	100
4	8,510	8,410	522	43,900	8,350	43,600	102
5	8,350	8,250	517	42,700	8,200	42,400	101
6 (概数値)	8,070	..	525	..	7,960	41,800	102

7 和歌山県

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用					
平成26年産	7,230	7,230	492	35,600	7,230	35,600	99
27	6,900	6,900	499	34,400	6,900	34,400	101
28	6,720	6,720	507	34,100	6,720	34,100	102
29	6,560	6,560	507	33,300	6,560	33,300	102
30	6,430	6,430	492	31,600	6,430	31,600	99
令和元	6,360	6,360	494	31,400	6,360	31,400	99
2	6,250	6,250	462	28,900	6,250	28,900	92
3	6,100	6,100	497	30,300	6,100	30,300	100
4	5,990	5,980	519	31,000	5,980	31,000	105
5	5,790	5,780	506	29,200	5,780	29,200	103
6 (概数値)	5,690	..	505	..	5,680	28,700	102

【調査結果】

1 近畿

(1) 令和6年産水稻作付面積（青刈り面積を含む。）は9万8,000ha（前年産に比べ1,300ha減少）と見込まれる。

また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は9万600ha（前年産に比べ600ha減少）と見込まれる。

(2) 9月25日現在における水稻の10a当たり予想収量は510kg（前年産に比べ7kg増加）と見込まれる。

これを府県別にみると、滋賀県は517kg（前年産に比べ13kg増加）、京都府は522kg（同20kg増加）、大阪府は511kg（同8kg増加）、兵庫県は496kg（同1kg減少）、奈良県は525kg（同8kg増加）、和歌山県は505kg（同1kg減少）と見込まれる。

(3) 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は46万1,700t（前年産に比べ3,900t増加）と見込まれる。

表1 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（近畿）

農 業 地 域 ・ 府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10 a 当たり予想収量			主食用 作付面積	予想収穫量 （主食用） （1.70mmベース）
	実 数	前年産との比較		実 数 （1.70mmベース） ①	平年との比較 対 差	前年産との比較 対 差		
		対 差	対 比				②	①×②
	ha	ha	%	kg	kg	kg	ha	t
近 畿	98,000	△ 1,300	99	510	1	7	90,600	461,700
滋 賀	30,300	△ 300	99	517	△ 1	13	27,400	141,700
京 都	13,900	△ 200	99	522	12	20	13,000	67,900
大 阪	4,300	△ 150	97	511	16	8	4,290	21,900
兵 庫	35,700	△ 300	99	496	△ 5	△ 1	32,200	159,700
奈 良	8,070	△ 280	97	525	12	8	7,960	41,800
和歌山	5,690	△ 100	98	505	2	△ 1	5,680	28,700

注：1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。

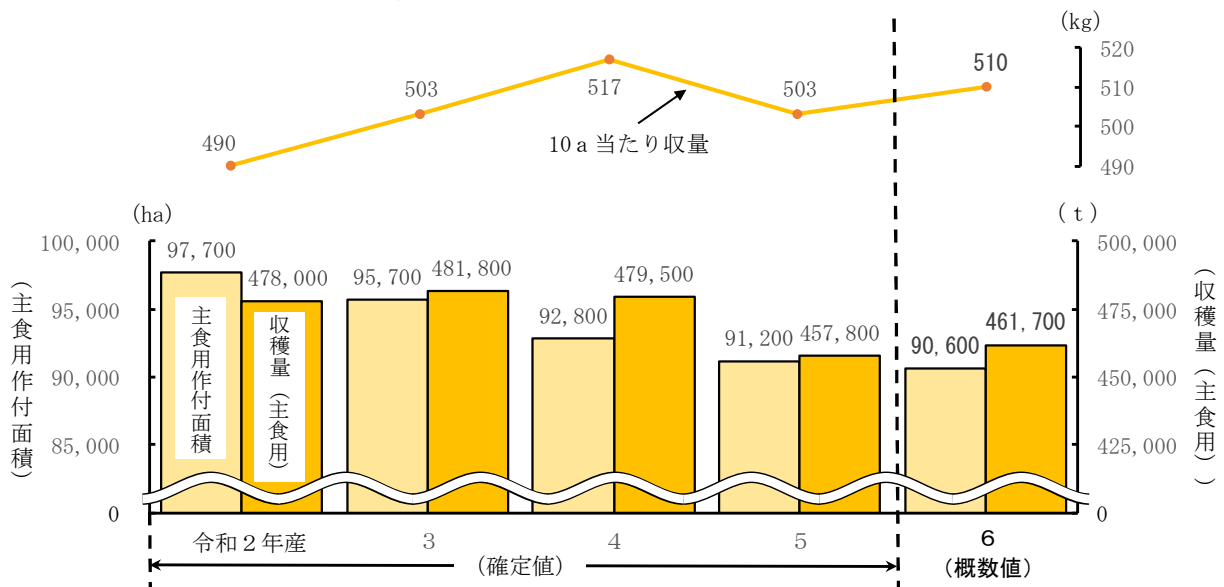
2 10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）は、1.70mmのふり目幅で選別された玄米の重量である。

3 10a当たり予想収量の平年との比較は、10a当たり平年収量との比較である。

4 主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。

5 予想収穫量（主食用）については府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

図2 水稻の主食用作付面積、10a当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（近畿）



注：10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふり目幅で選別された玄米の重量（令和6年産は予想）である。

2 滋賀県

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は3万300ha（前年産に比べ300ha減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は2万7,400ha（前年産に比べ400ha増加）と見込まれる。

(2) 作柄概況

穂数は、田植期以降5月中～下旬の日照不足により分けつが抑制されたこと等により「やや少ない」となった。

1穂当たりもみ数は、幼穂形成期の6月下旬～7月下旬が天候に恵まれたことや、穂数がやや少なかったことによる補償作用等から「多い」となった。

全もみ数は、穂数がやや少ない、1穂当たりもみ数が多いとなったことから「やや多い」となった。

登熟は、出穂・開花期に当たる7月中旬～8月中旬の気温が記録的な高温となった影響により、不稔もみの発生がみられることや、全もみ数がやや多いことによる相反作用等で「やや不良」と見込まれる。

9月25日現在の10a当たり予想収量は517kg（前年産に比べ13kg増加）と見込まれる。作柄表示地帯別は、湖南524kg（前年産に比べ13kg増加）、湖北501kg（同11kg増加）と見込まれる。

滋賀県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.90mm）の作況指数は100の「平年並み」と見込まれる。作柄表示地帯別は、湖南、湖北ともに100の「平年並み」と見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は14万1,700t（前年産に比べ5,600t増加）と見込まれる。

表2 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（滋賀県）

府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量		主食用 作付面積	予想収穫量 （主食用） （1.70mmベース）
	実 数	対前年差	対前年比	実 数 （1.70mmベース） ①	対前年差		
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
滋 賀	30,300	△ 300	99	517	13	27,400	141,700

表3 水稻の10a当たり予想収量及び作柄概況（9月25日現在）（滋賀県）

府 県 作 柄 表示地帯	10a当たり 予想収量 （1.70mmベース）	農家等が使用しているふるい目幅で選別				作柄概況（平年比較）			
		最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 予想収量	10a当たり 平年収量	作況指数	穂数の 多少	1穂当 たりも み数の 多少	全もみ 数の多 少	登熟の 良否
	kg	mm	kg	kg	①／②				
滋 賀	517	1.90	484	483	100	やや少ない	多い	やや多い	やや不良
湖 南	524	…	491	491	100	やや少ない	多い	やや多い	やや不良
湖 北	501	…	467	465	100	少ない	多い	平年並み	平年並み

3 京都府

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万3,900ha（前年産に比べ200ha減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は1万3,000ha（前年産に比べ200ha減少）と見込まれる。

(2) 作柄概況

穂数は、田植期以降おおむね天候に恵まれ「平年並み」となった。

1穂当たりもみ数は、梅雨明け以降高温・多照で経過したこと等から「やや多い」となった。

全もみ数は、穂数が平年並み、1穂当たりもみ数がやや多いとなったことから「やや多い」となった。

登熟は、出穂期以降高温・多照で推移しているものの、全もみ数がやや多いことによる相反作用等により「平年並み」と見込まれる。

9月25日現在の10a当たり予想収量は522kg（前年産に比べ20kg増加）と見込まれる。作柄表示地帯別は、南部が541kg（前年産に比べ11kg増加）、北部が500kg（同25kg増加）と見込まれる。

京都府の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は102の「やや良」と見込まれる。作柄表示地帯別は、南部が105の「やや良」、北部が100の「平年並み」と見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は6万7,900t（前年産に比べ1,600t増加）と見込まれる。

表4 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（京都府）

府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量		主食用 作付面積 ②	予想収穫量 （主食用） （1.70mmベース） ①×②
	実 数	対前年差	対前年比	実 数 （1.70mmベース） ①	対前年差		
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
京 都	13,900	△ 200	99	522	20	13,000	67,900

表5 水稻の10a当たり予想収量及び作柄概況（9月25日現在）（京都府）

府 県 ・ 作 柄 表示地帯	10a当たり 予想収量 （1.70mmベース）	農家等が使用しているふるい目幅で選別				作柄概況（平年比較）			
		最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 予想収量	10a当たり 平年収量	作況指数	穂数の 多少	1穂当たり もみ数の 多少	全もみ数 の多少	登熟の 良否
	kg	mm	kg	kg	①／②				
京 都	522	1.85	504	492	102	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
南 部	541	…	520	496	105	やや少ない	多い	やや多い	平年並み
北 部	500	…	488	488	100	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良

4 大阪府

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は4,300ha（前年産に比べ150haの減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は4,290ha（前年産に比べ140haの減少）と見込まれる。

(2) 作柄概況

穂数は、疎植栽培の拡大や6月下旬の日照不足の影響で分けつが抑制されたこと等から「少ない」となった。

1穂当たりもみ数は、幼穂形成期の7月下旬～8月上旬が高温・多照で経過したこと、穂数が少なかったことによる補償作用等から「多い」となった。

全もみ数は、穂数が少ない、1穂当たりもみ数が多いとなったことから「平年並み」となった。

登熟は、8月下旬の出穂期以降、気温・日照時間ともに平年を上回って推移していること等から「やや良」と見込まれる。

9月25日現在の10a当たり予想収量は511kg（前年産に比べ8kg増加）と見込まれる。

大阪府の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は103の「やや良」と見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は2万1,900t（前年産に比べ400t減少）と見込まれる。

表6 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（大阪府）

府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量		主食用 作付面積 ②	予想収穫量 （主食用） （1.70mmベース） ①×②
	実 数	対前年差	対前年比	実 数 （1.70mmベース） ①	対前年差		
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
大 阪	4,300	△ 150	97	511	8	4,290	21,900

表7 水稻の10a当たり予想収量及び作柄概況（9月25日現在）（大阪府）

府 県	10a当たり 予想収量 （1.70mmベース）	農家等が使用しているふるい目幅で選別				作柄概況（平年比較）			
		最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 予想収量	10a当たり 平年収量	作況指数	穂数の 多少	1穂当 たりも み数の 多少	全もみ 数の多 少	登熟の 良否
	kg	mm	kg	kg	①／②				
大 阪	511	1.80	494	478	103	少ない	多い	平年並み	やや良

5 兵庫県

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は3万5,700ha（前年産に比べ300ha減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は3万2,200ha（前年産に比べ300ha減少）と見込まれる。

(2) 作柄概況

穂数は、6月下旬及び7月中旬の日照不足の影響等で分けつが抑制され「少ない」となった。

1穂当たりもみ数は、幼穂形成期が高温・多照で経過したこと、穂数が少ないことによる補償作用等から「やや多い」となった。

全もみ数は、穂数が少ない、1穂当たりもみ数がやや多いとなったことから「やや少ない」となった。

登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから「平年並み」と見込まれる。

9月25日現在の10a当たり予想収量は496kg（前年産に比べ1kg減少）と見込まれる。作柄表示地帯別は、県南が494kg（前年産に比べ6kg減少）、県北が500kg（同26kg増加）、淡路が513kg（同1kg増加）と見込まれる。

兵庫県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は99の「平年並み」と見込まれる。作柄表示地帯別は、県南が99、県北が101の「平年並み」、淡路が102の「やや良」と見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は15万9,700t（前年産に比べ1,800tの減少）と見込まれる。

表8 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（兵庫県）

府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量		主食用 作付面積 ②	予想収穫量 （主食用） （1.70mmベース） ①×②
	実 数	対前年差	対前年比	実 数 （1.70mmベース） ①	対前年差		
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
兵 庫	35,700	△ 300	99	496	△ 1	32,200	159,700

表9 水稻の10a当たり予想収量及び作柄概況（9月25日現在）（兵庫県）

府 県 ・ 作 柄 表示地帯	10a当たり 予想収量 （1.70mmベース）	農家等が使用しているふるい目幅で選別				作柄概況（平年比較）			
		最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 予想収量	10a当たり 平年収量	作況指数	穂数の 多少	1穂当たり もみ数 の多少	全もみ数 の多少	登熟の 良否
	kg	mm	kg	kg	①／②				
兵 庫	496	1.85	473	478	99	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
県 南	494	…	471	478	99	少ない	多い	やや少ない	やや良
県 北	500	…	488	482	101	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
淡 路	513	…	482	474	102	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良

6 奈良県

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は8,070ha（前年産に比べ280ha減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は7,960ha（前年産に比べ240ha減少）と見込まれる。

(2) 作柄概況

穂数は、6月下旬の日照不足により分けつの抑制がみられたものの、田植期以降おおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となった。

1穂当たりもみ数は、幼穂形成期の7月下旬以降天候に恵まれたことから「やや多い」となった。

全もみ数は、穂数が平年並み、1穂当たりもみ数がやや多いとなったことから「やや多い」となった。

登熟は、8月下旬の出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから「平年並み」と見込まれる。

9月25日現在の10a当たり予想収量は525kg（前年産に比べ8kg増加）と見込まれる。

奈良県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は102の「やや良」と見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は4万1,800t（前年産に比べ600t減少）と見込まれる。

表10 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（奈良県）

府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量		主食用 作付面積	予想収穫量 （主食用） （1.70mmベース）
	実 数	対前年差	対前年比	実 数 （1.70mmベース）	対前年差		
	①			①		②	①×②
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
奈 良	8,070	△ 280	97	525	8	7,960	41,800

表11 水稻の10a当たり予想収量及び作柄概況（9月25日現在）（奈良県）

府 県	10a当たり 予想収量 （1.70mmベース）	農家等が使用しているふるい目幅で選別				作柄概況（平年比較）			
		最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 予想収量	10a当たり 平年収量	作況指数	穂数の 多少	1穂当 たりも み数の 多少	全もみ 数の多 少	登熟の 良否
			①	②	①／②				
	kg	mm	kg	kg					
奈 良	525	1.80	512	500	102	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み

7 和歌山県

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は5,690ha（前年産に比べ100ha減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は5,680ha（前年産に比べ100ha減少）と見込まれる。

(2) 作柄概況

穂数は、6月下旬の日照不足の影響等により分けつが抑制されたことから「少ない」となった。

1穂当たりもみ数は、7月下旬以降が高温・多照で経過したこと、穂数が少なかったことによる補償作用等から「やや多い」となった。

全もみ数は、穂数が少ない、1穂当たりもみ数がやや多いとなったことから「平年並み」となった。

登熟は、出穂期以降高温・多照に推移していること等から「やや良」と見込まれる。

9月25日現在の10a当たり予想収量は505kg（前年産に比べ1kg減少）と見込まれる。

和歌山県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は102の「やや良」と見込まれる。

(3) 予想収穫量（主食用）

主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は2万8,700t（前年産に比べ500t減少）と見込まれる。

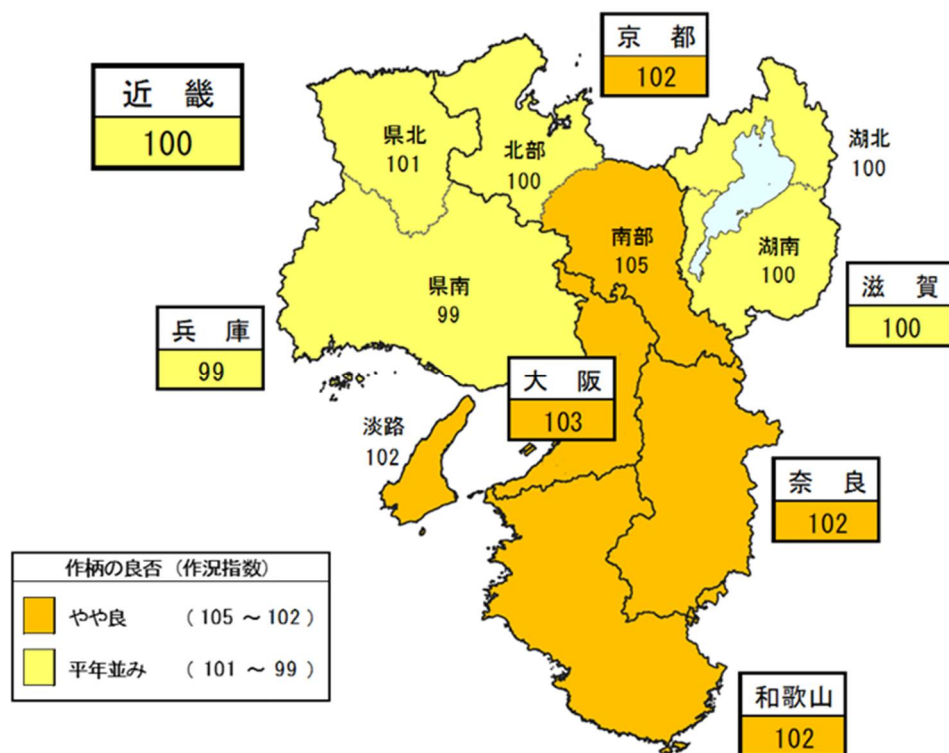
表12 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（和歌山県）

府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量		主食用 作付面積 ②	予想収穫量 （主食用） （1.70mmベース） ①×②
	実 数	対前年差	対前年比	実 数 （1.70mmベース） ①	対前年差		
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
和 歌 山	5,690	△ 100	98	505	△ 1	5,680	28,700

表13 水稻の10a当たり予想収量及び作柄概況（9月25日現在）（和歌山県）

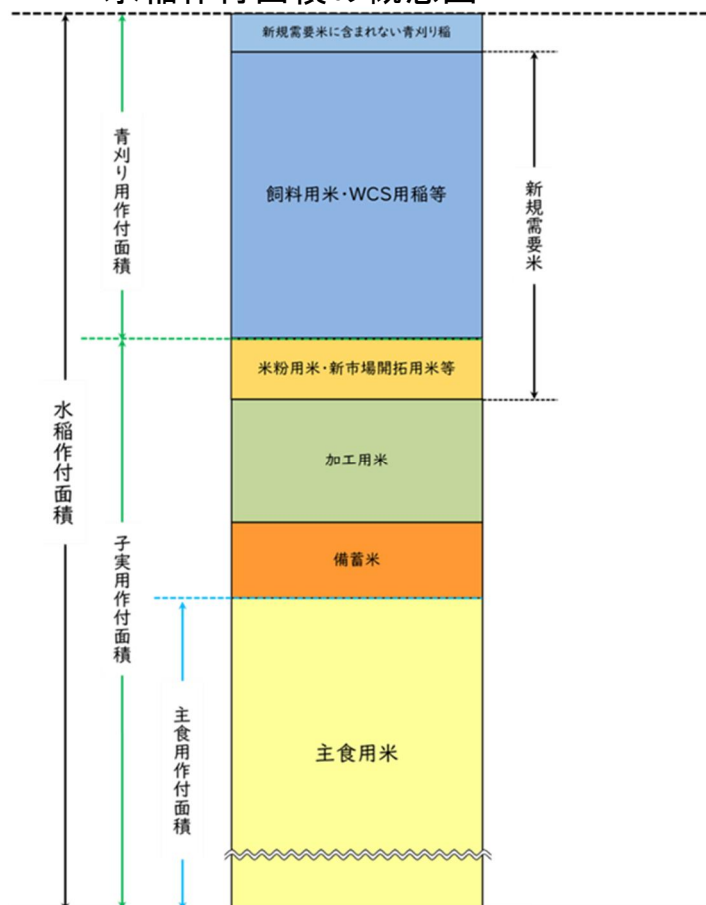
府 県	10a当たり 予想収量 （1.70mmベース）	農家等が使用しているふるい目幅で選別				作柄概況（平年比較）			
		最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 予想収量 ①	10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ①／②	穂数の 多少	1穂当た りもみ数 の多少	全もみ数 の多少	登熟の 良否
	kg	mm	kg	kg					
和 歌 山	505	1.80	499	491	102	少ない	やや多い	平年並み	やや良

図3 府県別・作柄表示地帯別作況指数（近畿）（9月25日現在）
（農家等が使用しているふり目幅ベース）



注： 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率であり、府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふり目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した。

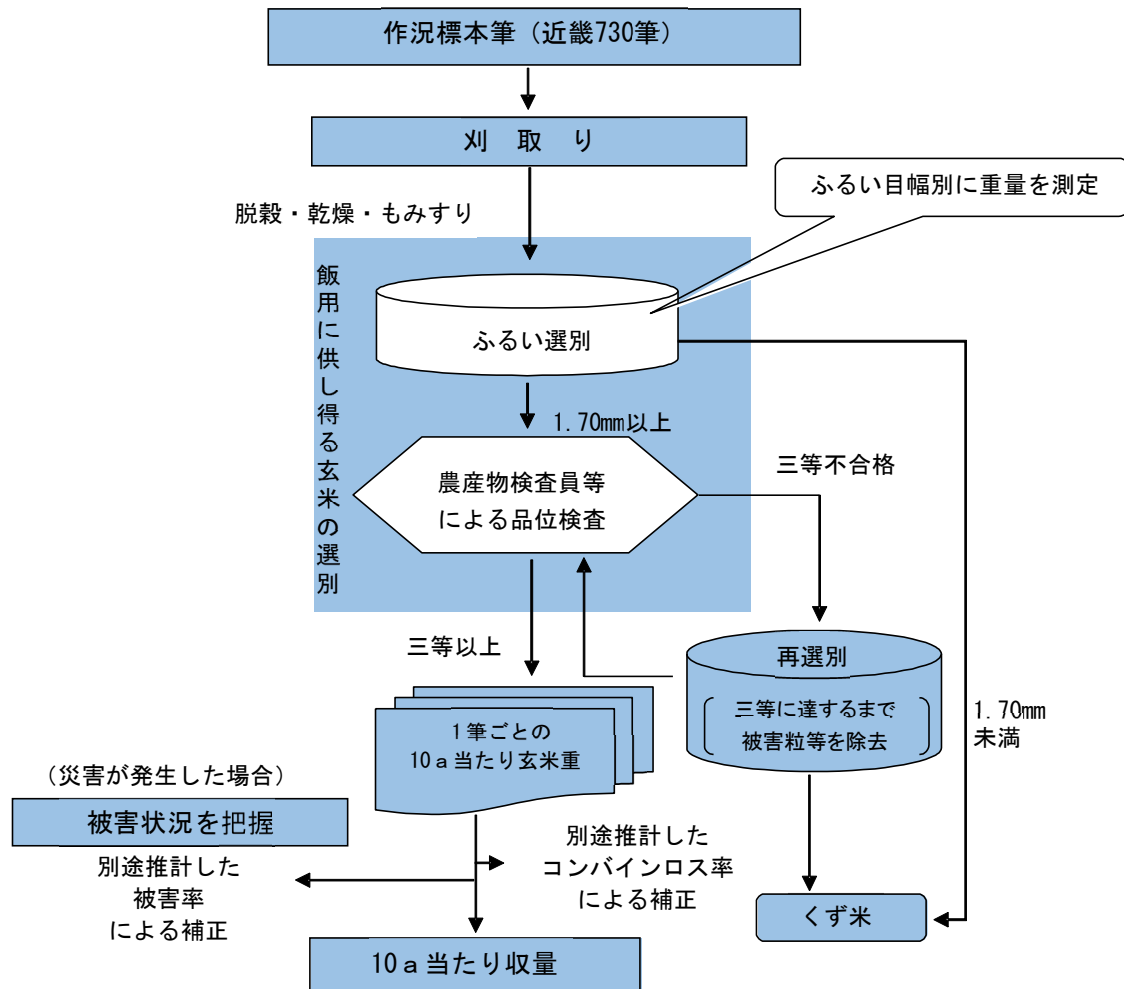
【参考1】 水稻作付面積の概念図



【参考2】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（^{ふで}【参考3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している。



【参考3】

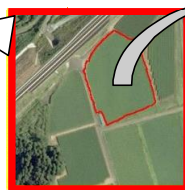
作況標本筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆という。）は、各府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（近畿で730筆）調査している。

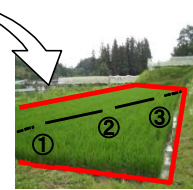
府県内の全ての土地
（母集団）



標本単位区
（200m四方の土地）



作況標本筆
（近畿で730筆）



1 府県ごとの全ての土地を200m四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1m（合計3m）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/d/excel/06_suitou0925.xlsx

【調査の概要】

- ・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

- ・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は、近畿農政局ホームページの統計情報に掲載している統計調査結果の「農林水産統計（第1報）」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/index2.html#ippou>

- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（令和7年2月予定）します。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和6年11月中旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、近畿農政局ホームページに掲載します。
- ・ 本調査の全国の結果は、農林水産省ホームページの統計情報に掲載します。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病虫害の発生面積は病虫害の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

各都道府県の生育状況等：米ネット（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）＞水稻の生育状況・技術情報リンク集

<https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

近畿農政局統計部生産流通消費統計課

電話：（代表）075-451-9161 内線2655

（直通）075-414-9650

近畿農政局 滋賀県拠点 統計担当

電話：（直通）077-522-4344

近畿農政局 大阪府拠点 統計担当

電話：（直通）06-6941-9659

近畿農政局 奈良県拠点 統計担当

電話：（直通）0742-32-1874

近畿農政局 統計部 統計調査担当

電話：（直通）075-366-2005

近畿農政局 兵庫県拠点 統計担当

電話：（直通）078-391-2873

近畿農政局 和歌山県拠点 統計担当

電話：（直通）073-436-3835

◎農林水産統計全般について

近畿農政局統計部統計企画課

電話：（直通）075-414-9620



政府統計

政府統計の総合窓口

(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。

農林水産統計

Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries

5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年2月末

農林業経営体調査

令和7年1月中旬～令和7年2月末

農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末

農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

